

2011年11月30日

内閣総理大臣 野田佳彦 殿  
防衛大臣 一川保夫 殿  
外務大臣 玄葉光一郎 殿  
沖縄及び北方対策担当大臣 川端達夫 殿

沖縄県保険医協会  
会長 仲里尚実

## 田中沖縄防衛局長の暴言に厳重に抗議し、 普天間基地の即時閉鎖・無条件返還を求める

11月28日、田中聡沖縄防衛局長は那覇市内の居酒屋で開かれたマスコミとの懇談会の席上、米軍普天間基地の「移設先」の環境影響評価書の提出時期に関する記者の質問に対し「犯す前にこれから犯しますよと言いますか」と信じられない暴言を吐いた。

また、1995年の少女暴行事件が起こった当時、米太平洋軍のリチャード・マッキー司令官が「犯行に使用した車を借りる金があれば、女を買えた」との暴言に対し、「その通りだと思う」と肯定している。

これらの田中氏の暴言は人権感覚のカケラもなく、女性を蔑視し県民を愚弄するものであり、決して許すことはできない。

こうした中で野田総理をはじめ関係閣僚は、普天間基地の辺野古への「移設」に向けた環境影響評価書の年内提出に向け準備をすすめることを公言している。

沖縄県議会は今日14日、「米軍普天間飛行場の辺野古移設に反対し、環境影響評価書の提出断念を求める」意見書を全会一致で可決した。

また名護市議会も同様の意見書を29日に可決したばかりである。

県民総意である普天間基地の「県内移設反対」を無視し、何が何でも基地を沖縄に押し付ける政府に対し強く抗議する。

沖縄県民は去った戦争で4人に1人が殺され、一家全滅した県民も数えきれず、戦後は米軍による事件・事故で多くの人命が奪われ、被害を被ってきた。

沖縄県民はあと何年、何十年基地を押し付けられないといけないのか。

私たちは日米両政府による基地の押し付けを断固として拒否する。

沖縄県保険医協会は、田中氏の暴言を糾弾するとともに、国際法に反して無法に作られた世界一危険な普天間基地の即時閉鎖と無条件返還を強く要求する。